

お届け!!

那覇市在宅医療・介護連携支援センターちゅいしーじー那覇

2018年(平成30年)4月《第4号》

ちゅいしーじー

ちゅいしーじーとは互いに助け合うさまを指します

〒900-0034 那覇市東町26番1号 (那覇市医師会内)
TEL:098-860-5666 (直通) FAX:098-860-5667 (直通)
MAIL:z1@naha-med.or.jp (受信のみ)
相談窓口開設時間:月~金(土日祝日除く)8時30分~17時30分

在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討

那覇市在宅医療・介護連携支援ネットワーク協議会において、協議された課題を踏まえて、下部組織となる**作業部会**で**対応策の具体的取組み**を行っていきます。

作業部会 A:入退院支援の推進

作業部会 B:介護関連施設と医療との連携

作業部会 C:在宅医療・介護の充実

医療・介護関係者の研修会の企画・開催

医療・介護関係者がお互いの分野について知識を深め、連携推進を図るための研修会の開催。

定例開催:意見交換会(奇数月)

大症例検討会(偶数月)

医療関係者に向けた、介護に関する研修会

介護関係者に向けた、医療に関する研修会

医療・介護関係者による同行訪問研修

ちゅいしーじー那覇の取組み

現在、市内の医療機関・介護事業所等に関する情報を集約しています。医療・介護関係者との情報共有・連携支援が行えるようリスト作成や当センターホームページへの掲載に取り組んでいます。

医療・介護の資源の把握・情報提供

医療・介護関係者等からの**在宅医療・介護の連携に関する相談**を受けています。

《これまでに寄せられた相談》

○訪問診療医を探してほしい

○医療機関の情報がほしい

○訪問診療を利用する際の手続きについて教えてほしい

在宅医療・介護連携に関する相談支援

コーディネーター・担当地区 紹介



※ご相談は、電話・FAX・メール・来所など、お気軽に!!

高江洲 あやこ

地域包括支援センター

石嶺・識名・おもろまち・松尾・安里

西銘 千絵

地域包括支援センター

古波蔵・小祿・金城・若狹

當銘 美華子

地域包括支援センター

大名・繁多川・松川

4月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6 19:30~ 平成30年度 第1回ネットワーク協議会	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26 19:30~ 大症例検討会	27	28
29 昭和の日	30 振替休日					

5月の予定

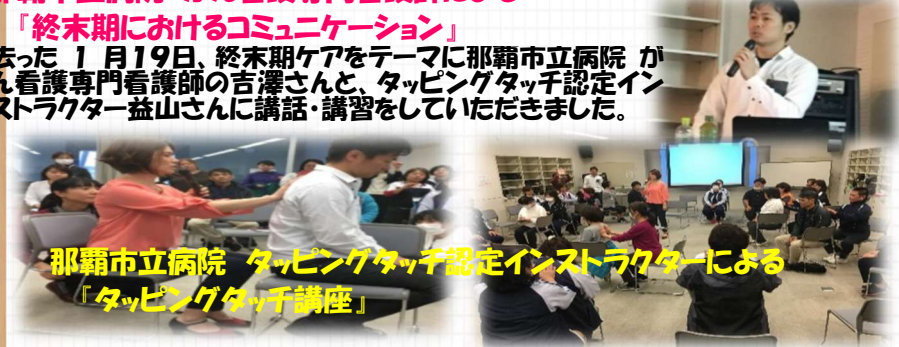
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

ちょっと覗きたくなる!? 研修風景

那覇市立病院 がん看護専門看護師による

「終末期におけるコミュニケーション」

去った1月19日、終末期ケアをテーマに那覇市立病院 がん看護専門看護師の吉澤さんと、タッピングタッチ認定インストラクター益山さんに講話・講習をしていただきました。



那覇市立病院 タッピングタッチ認定インストラクターによる「タッピングタッチ講座」

多種職連携研修会「ワールド・カフェ」緩和医療と在宅療養との連携

去った2月14日、急性期病院と介護事業所・施設の課題に焦点をあて、「緩和医療と在宅療養との連携」をテーマに、急性期病院の役割について医療と介護で意見交換をワールド・カフェ方式のグループワークを沖縄赤十字病院にて行いました。



こんな研修あったらいいな...

ちゅいしーじー那覇では、様々な研修会を開催しています。「こんなテーマの研修会をしてほしい」「一緒に研修会をしてほしい」などなど...
医療・介護関係機関と共催で研修会を開催していますので、お気軽にご相談ください。

★那覇市在宅ケアネット メールिंगリスト 登録者募集!!

研修会や勉強会等の開催情報をメールで配信しています。まだ未登録の方はぜひ!!
登録希望の方は、ちゅいしーじー那覇(津波古)までご連絡ください。
TEL:860-5666 FAX:860-5667

☆うちな〜くち占い☆ ※意味については、お近くの おいしい・おぼろに聞いてください。

A型: いちゃだむんや でーだかむん。きーちみそーいよーたい。

B型: あとまさいがふう。まっちょーていきみそーいよー

O型: いちゅなさが、ていーちなーていーちなー よんなー しみそーい

AB型: まーさむん かまーに くんち ちきうな

★桃太郎の登場人物(桃太郎、鬼、イヌ、サル、キジ)を探そう!裏表にあります★

ちゅいしーじーのぬちぐすい

本人のペースに寄り添って関わる大切さ

Oアルツハイマー型認知症 80代の女性Aさん。20代で結婚、二男三女を授かりました。自営業をされていたご主人を支え、Aさんは毎日、子や孫のために早朝から食事やお弁当を調理されていました。以前ご主人の担当もしていましたが、ご主人、娘さんとの面談中は、いつも奥に座られて控えめな印象でした。

ご主人が亡くなられ1年が経過した頃、同居の娘さんより「母親の物忘れがひどいのでどうか支援してほしい」との相談を受けました。「調理するも何を入れているかわからない」「洗濯機の電源を途中で切り、濯がずに干す。また濡れたままの洗濯物を取込む」「炊飯器にセットした米と水の分量が分からず、上手く炊けない」「同居している娘に向かって『早く帰りなさい』と話す」「尿失禁があり、自分で後始末をするが、入浴はせず体臭がある」とあったため、要介護認定の申請、支援の調整を開始しました。通院も不定期な方でしたが、以前からB病院を慕い、必要時に受診していたため、併設のデイサービスであれば通うだろうと、家族が根気強く見学へ連れて行く計画でしたが、1年経過しても上手くいかず・・・家族からは認知症も進行しているし、ショートステイや施設、または認知症専門の病院への入院調整をお願いされました。Aさんはいたっていつもと変わらず、他人を迎え入れる際は穏やかで、特に怒り出す様な気質ではなく、施設や入院を調整するのは気の毒でした。そんな時、娘さんから「父親が通院していたC病院に行きたいと言って、薬をもらいに行きました。もしかしたら、そこのデイサービスなら父も通っていたし、病院に行きながら通えるかな?」と相談を受けました。「果たして食事も人前でしないAさんが通り過ぎることができるだろうか?」と不安があったため、通りよりもまずは個別対応も必要だろうと考え、ヘルパーとデイサービスを交互に週3回で調整を行いました。サービス開始から2ヶ月程は、ヘルパーの訪問、デイサービスの迎えを嫌がる状況が続き、ヘルパーからは難しい等の声もありました。デイでは2分もしないうちに「帰る」という状況が2ヶ月位続きました。ご家族から「頭から水をかけでも入浴させてほしい!もう早くショートステイを計画してほしい!」等の要望があり、その度にカンファレンスを開催しました。ディから「関わる人に対して安心できない。無理強いはできない」と話がありました。そんな折、ヘルパーから「まずはお友達にならないと、本人が安心しない。」との関わり方が語られ、ご家族へ尿パットの促し方等も提案されました。

その後、3か月が経過した頃にはデイサービスで3時間過ごすことができた。ヘルパーは背中を拭くことができた。6か月後にはデイサービスで5時間過ごし、そこでの食事も摂れたとの驚きの報告があり、娘さんや事業所からも喜びの声を伺うことができました。

この事例からは、何よりも家族や事業所のスタッフが本人の心に寄り添うことで本人の不安が安心に変化したのだと考えられます。病気の特徴を理解することは最もですが、その人を知る、信じて粘り強く待つことで、本人が安心していく過程があったのだと思います。 提供: 居宅介護支援事業所 介護支援専門員